

「確かな学力を育てる学習活動の研究」

～言語活動を取り入れた授業実践を通して～

I 研究の内容

1 研究目標

教科、領域において、学力の向上のために、授業改善の指導過程・指導方法の工夫や評価方法の改善を進める。

2 研究の具体的内容と方法

(1) 児童の実態把握

(2) 学力についての理論研究

(3) 指導過程・指導方法の工夫などの授業改善，言語活動を取り入れた授業の研究

(4) 新しい学習指導要領にもとづく，年間指導計画の見直し

(5) 言語環境づくりプログラムの推進

3 具体的実践

(1) 理論研究

「確かな学力ステップアップ事業における学力について」

「新しい学習指導要領の改訂に関わって」

講師：義務教育課 嶋崎修指導主事

(2) 実態調査の実施

5月言語環境プログラムづくり実態調査，教科・領域等における児童の実態調査

(3) 授業実践

ア 低学年ブロック

・第1学年 生活科「むかしの遊びをしよう」

授業者 植原恵子，阪本寿美子，佐藤多恵

・第2学年 算数「新しい計算を考えよう」

授業者 筒井ひさ美，丸山枝里子，有井千恵子

イ 中学年ブロック

・第3学年 算数「四角形を調べよう」

授業者 鈴木百合子，内田厚子，保坂洋仁

・第4学年 理科「もののかさと力」「もののかさと温度」

授業者 古屋宏記，藤波貴，菱澤里美

ウ 高学年ブロック

・第5学年 算数「面積の求め方を考えよう」

授業者 武井利津子，深澤真人，神宮司剛，野尻政彦

・第6学年

理科「水溶液の性質とはたらき」

授業者 小林俊彦，山田浩，竹川俊之

家庭科「よりよい生活をめざそう」

授業者 相澤由佳，小山田理恵

エ 特別支援ブロック

・わかくさ，なかよし合同 生活単元「おこのみやきをつくろう」

授業者 岡輝彦，塚田志小美

・ひまわり 自立活動「ボードゲームをしよう」

授業者 長沼薫，手塚淳子

II 成果と課題

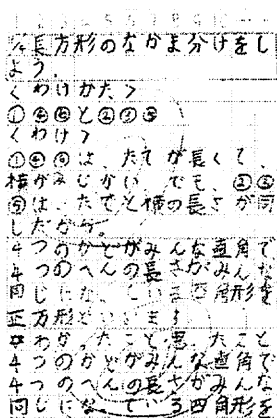
1 成果

- これまで国語力向上を目指した研究を進めてきた経過がある。これは新しい学習指導要領に盛り込まれている言語活動につながっている。言語活動に視点を当てたことにより、「読むこと」「話すこと・聞くこと・話し合うこと」「書くこと」の3領域について研究してきた成果をベースに研究を進めることができた。
- 言語活動を国語以外の教科・領域で取り入れて一人一実践の授業公開を行ったり、日常の授業で実践したりしてきたことで、改めて「言語活動」が「学力」の基礎になると実感できた。言語活動は、「学力」の要素である「基礎的・基本的な知識・技能の習得」や「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」と深く関わるものであり、学力を育てられることが分かった。
- 学力について、改めて考える機会になり、いろいろな角度からとらえることができた。また、児童の実態を日常の学習活動から把握し、身に付けさせたい学力を明確にして授業実践が行えた。
- 一人一実践の授業公開を学年ごと教科・領域の単元を1つに絞ったことで、単元を見通しての言語活動の位置づけが図られた。また、単元の学習が進むにつれ、言語活動が活発になった。
- 一人一実践の研究方法になり、日々の授業実践や研究へ主体的に取り組むことができた。また、それぞれの授業公開を参観することで、それぞれの教師のよさや授業の進め方など参考にすることができ、互いの刺激になった。
- 新しい学習指導要領にもとづいた年間指導計画の作成にあたり、改訂の趣旨やポイントを学習したことで、来年度からの移行期間と完全実施に向け、どのように学習を進めていったらよいか分かった。
- 言語活動の継続的な取り組みや言語環境作りプログラムの推進により、多種多様な活動が取り入れられてきた。継続して取り組むことにより、言語活動の機会がより多くなり、豊かな言語環境に触れることになる。

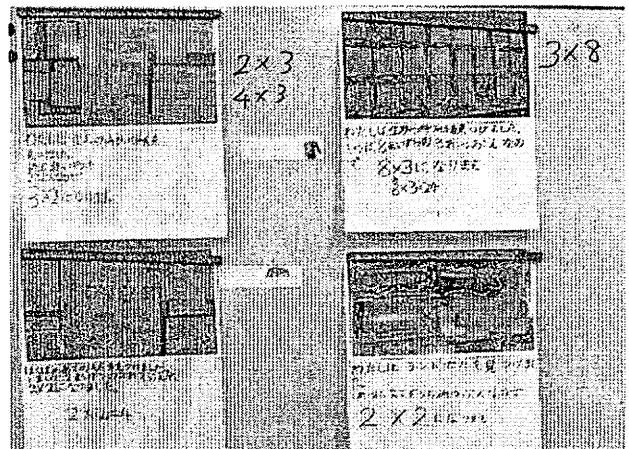
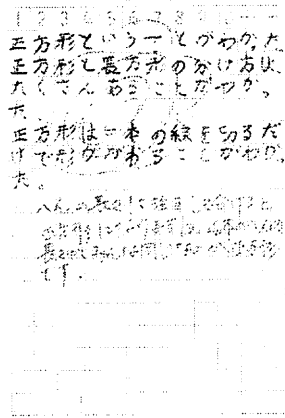
2 課題

- 本校としての学力のとらえ方を明確にすることで、身につけさせたい力やその具体的な方法などがはっきりしてくる。
- 一人一実践の授業公開は、互いの研鑽にとってとても良いのだが、より多くの授業を参観するには、参観の方法や授業公開の時期を改善していく必要がある。
- 言語活動の取り入れ方、自己評価の方法、目標に到達できない児童へのよりよい支援を探っていくことも必要である。

III 成果物



3年算数ノートから



2年算数「新しい計算を考えよう」の授業から

(研究主任 藤波 貴)